

桐生西ロータリークラブ週報

2009-10年度RIテーマ

ジョン・ケニーRI会長 ロータリーの未来はあなたの手の中に



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi
 会長 下井田秀一 クラブ会報・雑誌委員長 松原 豊
 幹事 向田 靖 委員 井本上輔・正田恵一

No. 1757

2010年2月26日発行

第1865例会 (2010・2・19) 報告

ロータリー創立記念日に因んで・100%出席例会!!

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 点 鐘 | 6. 幹事報告 |
| 2. ロータリーソング | 7. 食 事 |
| 3. マルチプル・ポール・ハリス・フェロー授与 | 8. 委員会報告 |
| 4. 米山功労者感謝状授与 | 9. 卓 話 星野幸男パスト会長 |
| 5. 会長報告 | 10. 点 鐘 例会終了後例会運営委員会開催 |

◆マルチプル・ポール・ハリス・フェロー授与

石川忠正君



◆米山功労者感謝状授与

〈第4回〉
斎藤憲一君
須田真一君



〈第2回〉



石川忠正君、栗原幸三君、田崎武夫君、坪井良行君



〈第1回〉

霜村年勇君

◆会長報告

下井田会長

- 今年度2回目の100%出席例会が、お陰様で達成出来ました。改めまして皆様のご協力と、お互いに息災であった事に深く感謝したいと思います。
- 先週は例会変更で、桐生赤城RCと合同の講演会と夜間例会でした。講演会には一般の来場者が百名を超え大成功であったと思います。その後の懇親会も大変盛り上がり、良い合同例会が開催できました。皆様のご協力に感謝申し上げます。そしてその中で募金を募りまして117,481円集まり、瀬谷ルミ子さんの関係団体にお贈りしました。有効に使って戴けることと思います。また瀬谷さんが関係している書籍の販売も行い、相当お買上頂きました。更に両クラブで桐生市とみどり市の各中学校に1セットづつ寄贈しましたので、あわせてご報告致します。
- 2月12日(金)、タイ国チェンマイ・ティンタインガムRC紹介によるバンラクパン学校中学生教室拡張プロジェクトの贈呈式に行きまして参りました。詳しくは後日、江原国際奉仕委員長より報告して頂きます。若干の報告が本日配布のクラブ会報に載っております。また頂いて参りました感謝状などはこれから回覧致します。
- ロータリー創立記念日は2月23日です。当クラブの本日の例会もそれに因んだプログラムとなっております。2840地区は、当日上毛新聞にロータリーの活動内容を掲載する予定です。桐生地区は桐生中央RCの活動内容が写真入りで紹介される予定です。気に留めてご覧頂きたいと思います。
- 来週の例会は有名な群馬大学の片田教授の卓話です。桐生中央RCさんが例会変更にして大勢でメイクにいらっしゃるそうです。
- 2月21日(日)に沼田市ディランで地区ローターアクト年次大会が開催され、桐生西RAC会長幹事の辻君と小川君が参加される予定です。

◆幹事報告

向田幹事

- ◇例会終了後1F和室で例会運営委員会を開催致します。
- ◇募金頂きましたハイチ地震支援金を地区に送金致しました。
- ◇3月のロータリーレートも2月同様1ドル90円です。
- ◇瀬谷ルミ子さん講演会の記事が2月10日桐生タイムス紙に掲載されました。(各テーブルに配布)
- ◇ハイライトよねやま120が配信されました。(R)
- ◇ロータリー・ワールド1月号とロータリー国際囲碁大会のご案内が届いております。
- ◇2月22日(月)プリオパレス休館の為事務局はお休みです。
- ◇例会変更のお知らせ
桐生赤城RC 3/10(休) 太田西RC 3/17(休)、3/31
富岡RC 3/3、3/31(休)
- ◇クラブ会報が到着しています
桐生RC 2/8、2/15 桐生南RC 2/3、2/10
桐生赤城RC 2/2、2/9 足利RC 1/8、1/15、1/20・29
太田RC 10/1・8、10/18・22、11/12・19・26、12/3、12/10・17、1/7・14、1/21、1/28

◆SAA

稲森SAA

本日はロータリー創立記念日を祝い「山菜おこわ」と「ハンバーグ」をご用意致しました。日本では八十八日間苦労を重ねたお米を取獲し、一年の農作業が一段落した時のお祝いとして大変贅沢でお赤飯以上のご馳走として食べたのが「山菜おこわ」だったと古来より伝えられています。一方ハンバーグは、18世紀のドイツのハンブルクでタルタルステーキとして人気のメニューで“ハンブルク風ステーキ”と呼ばれておりましたが、19世紀にアメリカに伝わり、ハンバーガーステーキとして人気の料理になったと云われています。ポール・ハリス生誕の地で人気にある「ハンバーグ」と、日本でお赤飯以上に贅沢で慶事に食べる「山菜おこわ」をお召し上がり下さい。尚、ご協力頂きましたプリオパレスのスタッフの皆様へ感謝致します。

◆食事メニュー

1124キロカロリー

和風ハンバーグ、サーモンと茄子の揚げ出し、香の物、山菜おこわ、粕汁、梅酒ゼリー

◆委員会報告

□出席委員会

花房委員長

総数48名(免除者8名の内8名出席)
出席率対象者48名、出席率対象者出席人数39名
欠席者9名(内前メイク9名) 出席率100%
前々例会修正出席率93.02% (最終欠席者3名)

□ニコニコBOX委員会

石川委員長

星野幸男パスト会長卓話ありがとうございます
乾君、津久井君、向田君、稲森君、前原君、井本君、下井田君、江原君、正田君
誕生祝いありがとうございました 山岸君
江原国際奉仕委員長お世話になりました 中野君
ゾウの鼻にさわって頂きました 田崎君
チェンマイRCの件では清水事務局長に大変お世話になりました 家住君

□ロータリー財団委員会

前原委員

星野幸男パスト会長卓話ありがとうございます
津久井君、向田君、稲森君、新木君
江原国際奉仕委員長お世話になりました
中野君、阿左美君
チェンマイにもシャッター通りがありました 田崎君
タイ旅行同行の皆さん大変お世話になりました 家住君
瀬谷ルミ子氏講演お世話になりました 江原君

□米山奨学委員会

船戸委員長

星野幸男パスト会長卓話ありがとうございます
乾君、津久井君、向田君、稲森君、阿左美君、新木君、塚本君、船戸君
幸男さん勉強させていただきます 根本君
国際交流(チェンマイ)ではお世話になりました 江原君
下井田年度WCS事業無事終了ご苦労様でした 家住君

バンラクパンスクールへ行かれた皆さんお世話になりました 田崎君

◆石川会員よりお母様の告別式に際しお礼の言葉

先日の母の通夜・告別式に際しましては、お忙しい中ご会葬下さいまして、誠にありがとうございました。10年間患った後、2月1日に天命を全うし永眠いたしました。何かと不行き届きの点もあったかと存じますがお許し頂きまして、ご会葬の御礼とさせていただきます。

卓 話



パスト会長

星野幸男君

「ロータリー創立記念日に因んで」

「ロータリーとは出席することと見つけたり」のだいぶ古くなった名句があります。当西クラブは下井田会長の指針である「出席・観望・奉仕」の精神を各人が心に刻み込んで、四季折々に立派な奉仕の花を咲かせております。西クラブの活力はどこにも負けない力強いものであります。

私は、会員諸兄の好意と友情に支えられて、この38年間にわたり、楽しくロータリー生活を過ごしてまいりました。ロータリーは奉仕を志す人々の集まりであると同時に、大人の学校であるとも言われています。これまでのよき先輩、同僚の方々との出会いや別れは、生涯忘れることはないものであります。

「山に在りて、山姿見えず」の諺通り、クラブ在籍は決して短くないと思っておりますが、いまだにロータリーの何たるかを理解できないでいる落第生であります。

2月はロータリーにとって歴史的に意味のある月です。運悪く特別例会のスピーカーに指名されてしまいましたので、少々、ロータリーの誕生に関して話をさせていただきます。

2月23日は、ロータリーの創立記念日であります。1905年2月23日にシカゴで初めてロータリーは生まれました。創立のために集まったメンバーは、ご存じのポール・パーシ・ハリスほか、シルベスター・シール、ガスタバス・ローア、ハイラム・E・ショーレイのわずか4人でありました。以来、今日で満105年になるわけですが、今では世界のロータリアンのメンバーはクラブ数33,790で、1,230,000人となり、その中で日本のロータリアンは2,300クラブ、会員総数約92,000人になるところまで発展いたしました。(2009年6月のRI公式発表)

RIでは、毎月2月を世界理解月間として定めています。そして最初にロータリーの会合が開かれた日(1905.2.23)を、ロータリー創立記念日、世界理解と平和の日として、また23日からの一週間を世界理解と平和週間と定めております。

【1】ロータリーのはじまり

ポール・P・ハリスは1891年の6月アイオワ州立大学の法学部を卒業したが、先輩の話聞き、すぐには業にはつかず、社会勉強のため5年間の放浪生活をしている。彼はこのことをFive Years Folly といっている。

その後シカゴへ定住し、弁護士を開業したのであるが、

独り身の彼は淋しい日々を送っていた。

1900年の夏のある日、ポールは友人の弁護士から夕食に招待され、食事の後二人は散歩に出かけたが、店の前を通る度に友人は店の主人と名前を呼び合って挨拶をしていた。ポールは友人が近隣の実業家達の中に、多くの良い知人をもっているということに深い感銘を覚え、この大都会のシカゴで、さまざまな職業から1人ずつ政治や宗教に関係なく意見を大らかに認め合えるような人を選び出して、1つの親睦団体を作ることが出来れば、必ずお互いに助け合うことになると考えたのであった。

シカゴ市は19世紀の終わりの頃はアメリカ全土の不況の影響を受けて、失業者が溢れ、市内の商店も半分は店を閉め、アパートの多くは空家という有様であり、一方、不正と汚職が堂々とまかり通る町であった。

1905年の2月23日のシカゴの夜は、川や湖は厚い氷が張り、道路は鉄のように硬く、身を切るような寒さであった。

ポールは彼の法律事務所のお客であり、将来無二の親友となる、石炭商のシルベスター・シールを誘い、イリノイ街18番地のイタリア料理店（後にクラブの例会場になる）で夕食を済ませ、北ディアボーン街のユニティビル7階に出かけていった。そこは友人である鉱山技師のガスタバス・ローアの事務所、あまり照明のきいていない小さく粗末な部屋であったが、そこにガスタバス・ローアの友人である洋服商のハイラム・ショーレイがポールたちを待っていた。

ポールが彼ら3人に語ったことは「職業の違ったものたちが定期的集って、お互いに助け合い、仲良くして不況を乗り切ろうではないか」ということであった。

彼らは夜遅くまで話し合い、2週間後の3月9日に、さらに友達を誘ってポールの事務所に来ることを約束して別れたのである。これがロータリーの始まりということである。然し乍ら、クラブ名は勿論、役職も決まっていなかった。ポール・ハリスは、この1905年の2月23日はロータリーにとって記念すべき日であるといひ、湖畔の一都市を舞台として始まった一場のドラマともいい、「ディアボーン街の奇跡」とも言っている。

3月9日のポールの事務所での第二回の会合には、さらにハリー・ラグレス（印刷業）とウィリアム・ゼンセン（不動産業）が加わっている。

3月23日の第3回の会合がシールの事務所が開かれているが、ポールはシールを会長に、ショーレイを記録係に、ゼンセンを文書係に、そしてハリーを会計係に指名している。しかし、クラブ名は色々提案されたが、決定しなかった。

【2】ロータリーの4人の使徒

1905年2月23日にロータリー創立に集ったのは次の4人である

1. ポール・パーシィ・ハリス（弁護士）
2. シルベスター・シール（石炭商）
3. ガスタバス・ローア（鉱山技師）
4. ハイラム・E・ショーレイ（洋服商）

その略歴は

1. ポール・P・ハリス

1868年即ち明治元年4月19日、アメリカ ウィスコン州レーシン生まれ。3歳のとき親許を離れ、遠くバーモント州ウォーリングフォードの父方の祖父母の家で育てられた。子供の頃は賢くはあったが、なかなかのいたずら好きであった。

大学はバーモント大学、プリンストン大学、およびアイオワ大学に学んでいる。

1891年アイオワ大学法学部卒業後、シカゴで弁護士を開業するまでの5年間、人生修行のため、放浪生活を過ごしている。これを彼は「5年間の愚行（5 years Folly）」といっている。

ポール・ハリスの一生はロータリーそのものであった

ともいえるが、一方アメリカの弁護士界にも大きな功績を残している。

2. シルベスター・シール

彼はロータリークラブの初代会長になった人である。1870年インディアナ州クレイ・シティでドイツ系の家に生まれ、幼時は貧困な生活であって、かなりの辛苦を味わっている。シカゴへ出て、石炭商を営み成功した。非常に人懐こい性格で、社会事業、教会事業での中心人物となり、当時慈善事業では欠かせない1人であった。ポール・ハリスとは生涯を通じての親友であり、住居もすぐ近くであって、ハリスの希望でシールの墓の隣にハリスの墓が作られている位である。

3. ガスタバス・ローア

彼もドイツ系の両親から生まれている。シールとは対照的な性格で、感情の起伏が激しく、移り気な人間であったが、一方、寛大すぎるほどの寛大さで多くの友人を助けた。残念なことに事業に失敗し、まずロータリーを辞め、僅か数年後にこの世を去っている。

4. ハイラム・E・ショーレイ

彼は気持ちの良い性格で社交的な人物であった。いつも自分の出身地メイン州の自慢話ばかりしていて、大都会の生活には完全に満足することが出来なかった。彼は記録係に選ばれていたが、長くロータリーに留まることが出来ず、生まれ故郷へ帰ってしまっている。キリストの12人の使徒(Apostle)に因んで、以上がロータリーの4人の使徒という。

【3】5年間の放浪生活

ポール・ハリスは1891年6月、アイオワ州立大学を法律の学位を取得して卒業した。

卒業式の行事としての講演の中で、弁護士を開業している先輩が、どの卒業生もまずは小さな町へ行って5年くらいそこで愉快地過ごして、それから適当なところで弁護士を開業するのも一つの考え方だという意見を述べたのである。

彼の同じクラスの仲間達は、すでに方々の市や町で開業すべく、手筈を整えていたが、ポールはまだ定着する気はなく先輩のアドバイスの通り、5年間くらいはアメリカ各地を、出来れば外国も見て廻ろうと心に決めたのであった。彼自身、このことを Five Years Folly といっている。

彼のこの決意は、とてつもない冒険と、勇気と、忍耐と、そして探究心に満ちたものであったといえる。

彼はどんな仕事でも引き受け、山でも野でも分け入り、何百マイルとなく歩き通し、貧困のどん底の時は野宿もし、飢餓状態に陥り窮乏生活を味わう日々を過ごしている。その5年間に彼がどんな仕事に従事したかについて簡単に並べてみてもここに記述しきれない程であります。

- ①新聞の自由契約記者
- ②果樹園の肉体労働者
- ③商科大学の教師
- ④劇団の俳優
- ⑤牧場のカウボーイ
- ⑥ホテルの夜勤事務員
- ⑦牛の輸送船の家畜係
- ⑧トウモロコシ缶詰工場職人
- ⑨オレレンジ摘みとり箱詰め作業
- ⑩大理石会社セールスマン

この時代に、ヨーロッパ各地、ニューヨーク、キューバ諸島などを歩き、見学した。

そして予定の5年間の放浪生活には未だ3ヶ月を残していたが、弁護士の事務所開設のため、シカゴに行くことになって、大理石会社を辞め、Five Years Follyの幕は下ろされた。

【4】ロータリーの名称と1業1人制

1905年の2月23日にロータリーが第一回の会合を開き、第二回目の会合が3月9日に行われたが、まだロータリーという名称はなかった。3月23日の第三回目の会合で、新クラブの名称が検討され、いくつもの提案がなされた。その主なものは

1. シカゴ市民クラブ
1. ブルー・ボーイズクラブ
1. プースタークラブ

1. レイク・クラブ

1. スリーエフクラブ=Food-Fun-Fellowship Club
等々、12ほど挙げられた。

最後のF. F. F. クラブは女人禁制の頭文字にも当るといふユーモアたっぷりのものであった。然しこれらの中にはロータリーという名称はなかった。

始めは暫定的にブースター (Booster) ということにしたといわれている。例会が持ち回りで、会員の事務所を持たれたことから、ポール・ハリスの提案でロータリーという呼称が採用されて今に及んでいる。この持ち回りと1業1人制はロータリーの専売ではなく、このアイデアは非常に古く、ソクラテス (紀元前400年) の昔からあり、近くは17世紀の始め、ロンドンに「ロータ」と名付けられたものがあった。

また、18世紀後半には「ローティションクラブ」というのがあって、毎週集会をやっていたということである。他に、同じ職業の者は会員にしないとして1業1人制を規約していたクラブもあった。

然し、ポール・ハリスは次の様に強調している。「これらのものとロータリーの違うところは、奉仕の理想を追求する熱意と激しさと強さにある」と。

【5】ロータリーと歌

ロータリーの例会はロータリーの歌を唱ってはじめられています。然し、世界中のクラブの総てが唱っているわけではなく、イギリス・インドなどのクラブでは例会で歌は唱わないようである。

ロータリーで最初に歌を唱ったのは1905年の秋頃といわれている。

会員の数が15名になり、隔週に会合を重ねて、ロータリーの事やその他のことを話し合っていたが、時々話が途切れがちであった。ハリ・ラグルス (ロータリー5番目の会員。印刷業) が、どうだい皆で歌でも唱おうじゃないかと言って、彼が指揮をとったのが、皆賛成して一緒に唱ったということである。勿論、今のようなロータリーソングなどはなく、その頃流行っていた歌とか、フォークソングのようなものであったようである。

ロータリーが例会で歌を唱うことは、第一に友愛の宣揚となることと、第二に気分の緩和になること等といわれている。ポール・ハリスもそれを強調しているが、讚美歌の声がキリスト教会の精神力を回復せしめるのに最も適当であり、切実であるという教会の統率者の言からきているものと思われる。

尚、地区大会などで最後のパーティの終わりに、「手を手つないで」を唱うようになったのは1953年10月、第61地区の年次大会が神戸で開催されたとき、ある大会S A Aの咄嗟の気転で皆手をつながせたのが始まりということである。

【6】例会と食事

1905年、ロータリーが生まれた頃の例会は不定期であった。そこで例会開催の都度会員に通知を出していた。その通知には余白が相当あったので、一寸した記事を書きこんでいた。これがクラブの会報とか、月報とかの始まりだといわれている。

始めの頃は食事を済ませてから会場に集まることになっていたのだが、別に会費というものを徴収していなかった。その代わり欠席した会員からは理由の如何を問わず、その都度50セントの罰金を払うことが定められていたのである。この罰金によってクラブの運営費を賄っていたのである。

ある日の会合で、チャーリー・ニュートン (保険業) が非常に遅れてきたので罰金を科そうとしたのであるが、彼は食事に時間がかかったということでこれを拒否した。そこで、会員が夫々別に食事をして集まることをやめ、食事をともにしてから揃って例会場に行くようにしようという提案がなされた。これに対しては色々議論があり、エピソードもあったようであるが、結局一定の場所で食事をして例会を開くことになり、これが習慣

となって今日に及んでいるのである。

【7】日本のロータリーの始まり

ロータリーの創始者 ポール・P・ハリスと、日本のロータリーの創始者 米山梅吉は同じ時代に79歳の人生を過ごした二人である。その生存年月はわずかに数ヶ月の差が有るのみであり、ともに孤独な幼年時代を過ごし、アメリカの大学で法律を学び、人生での生き様は異なるといえども、ロータリーの奉仕の理想に身を挺した二人である。

米山梅吉は1897年三井銀行へ入社。間もなく重役になった彼は (男爵 目賀田種太郎を団長とする) 財政調査団に加わり、1918年の正月を米国テキサス州ダラスで迎えた。ダラスには三井物産ダラス支店長の福島喜三次が居り、ダラスRCの会員になっていたため、米山梅吉はここで初めてロータリーの話聞き、大いに心を動かされて帰ってきた。

その頃の日本は第一次世界大戦に連合国側として加わって参戦し、いわゆる漁夫の利を得て国内は船成金、鉄成金の輩出などで浮き立っていたが、翌年戦争が終わると激しい恐慌に襲われ、不景気の中で農民運動やメーデーやストライキが起こるなど、漸く動揺を感ずる時代になっていた。

1920年福島喜三次も日本に帰り、ダラスRCからも日本にもロータリークラブをつくるように勧められ、シカゴ本部からもつくる許しも受けていたが、期限内にはなかなかできなかった。

アメリカ合衆国のように開拓された土地に新しく生まれた社会では、それを健全に守るためには、何よりもフェローシップ (仲間意識) が大切であるが、そのフェローシップを基にして生まれたロータリーに対して、長い封建鎖国の時代から、明治維新、大正デモクラシーといわれても旧態依然たる当時の日本人々にとって、その精神はもとより、その組織運営についても理解することは誠に容易でなかった。

1920年9月、漸く銀行クラブ (?) に18名の会員候補者を集めて発起人会を開き、準備を進め、10月20日、24名で創立総会を開き、東京ロータリークラブが誕生したのであった。

会長に米山梅吉、幹事に福島喜三次が就任し、翌1921年4月1日付で登録番号855をもってロータリー国際連合会から承認された。

はじめは会員の選考が極めて厳格で、特に語学には注意が払われた。クラブの記録通信など、一切が英文であったからである。その頃の会員は定款細則などに対する関心が薄く、出席も悪かったので、クラブの存続さえも危ぶまれる程であった。

大阪に転勤した福島喜三次は星野行則と話し合う機会を得、星野行則も1921年英米訪問実業団の一員となって渡米し、1922年の春、シカゴ国際ロータリーの本部を訪れ、そこで大阪にもロータリークラブをつくることを委任されたのであった。

かくて1922年11月大阪ロータリークラブが創立された。1923年2月10日付で番号1349に登録承認せられたのである。

1923年9月1日の関東大震災では、国際ロータリー本部、シカゴクラブ、ニューヨーククラブ、その他米、英、加をはじめ、各国の503に及ぶクラブから続々と義捐金や救援物資が送られて、その数も8万9千ドルに達した。

東京クラブはロータリーからの義捐金を東京、横浜の小学校の再建や罹災者救護などに使うとともに、1923年11月の例会で定款どおり毎週1回正しく例会を開くことを決定、会員もよく出席するようになった。

《次例会予告》

3月5日(金) 外部卓話
書家 亀井兼吉様 (号 祥齋先生)